

第5回 南丹市環境審議会 議事録

日時：平成22年12月14日 13:30～16:30

場所：南丹市役所 2号棟 3F 301会議室

<出席者>

中川委員、仲 委員、井尻委員、高屋委員、滝野委員、原田委員、松田（清）委員、
松田（茅）委員、松本委員、宮田委員、用澤委員、山下委員
（欠席：谷尻委員、田中委員、堀川委員、前田委員）

<次 第>

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 審議事項
 - 1) 第4回審議会からの変更概要について（資料1）
 - 2) 南丹市環境基本計画素案についての検討（資料2）
 - 第1～5章について
 - 『第6章 温室効果ガスの削減』について
 - 『第7章 計画の推進体制』について
 - 3) その他
 - 今後のスケジュール等
4. 閉 会

〈 1. 開会 ～ 2. 会長あいさつ 〉

事務局進行のもと、執り行われた

〈 3. 審議事項 〉

【 1）第4回審議会からの変更概要について（資料1） 】

【 2）南丹市環境基本計画素案についての検討（資料2） 】

○第1～5章について

（事務局より資料および今後のスケジュール管理等の説明）

会 長：第1章の中で何か意見はありますか。

委 員：P2「本市を取り巻く背景」の網掛けの部分で、本市の特徴を書いているが、南丹市で一番高い三国岳という959mの山がある。中腹の由良川源流域は、京都大学研究林の広大な自然林が広がり下流域の水環境に、というようなつながりで、芦生の原生林や三国岳について追加できないか。由良川水系は南丹市に源流を発しているため、詳しく追加してもらえるとありがたい。

会 長：ここは大事な部分であるから特異性を最大限PRするといいたいだろう。今の内容を追加してほしい。

委 員：用語解説の※が、全ての文言についている。これは1ページにつき1回くらいでいいかもしれない。一度検討いただきたい。

会 長：検討してほしい。全体としてヘッダーかフッターに、何章か分かるように示すといいと思う。P6「計画における環境のとらえ方」で、資源循環の中に木材を入れるといいのではないか。木質バイオマスと言えばバイオマスの中に入るのだが、ここではスギは重要な資源なので検討してみてほしい。1章では、由良川についてもう少し追加する、※はバランスを考えて整理する、資源循環に木材を入れてもらうこと。第2章についてはどうか。

委 員：P10「人口・世帯数」の数字で、人口はH21年、世帯数はH17年の記述になっている。下のグラフとも整合性をとってもらいたい。H22年1月1日現在の数字を把握できないだろうか。

事 務 局：H17年までは国勢調査の数字を使っている。H22年の国勢調査は10月1日付けであり、この計画ができるまでには速報が出るため、その数字に合わせた。今は仮で入れてある。

委 員：P9「気候」で園部と美山の違いがあるが、他の2町はどうなのか。P11「園部八木線の試験運行を実施している」とあるが、今後どうなるのかということも含めて書かれているのか。

事 務 局：気象については、気象庁の測定地点が園部と美山にある関係で、その数字を使って表記している。地域別というよりも、気象台での比較ということを書き加えたい。他で継続的に測定している所があればいいのだが、残念ながら

らない。試験運行については、市営バス所管課と相談してみる。

委員：P11「交通」で、JR山陰本線の利用状況がH18年でデータが古い。もう少し新しい状況はつかめないか。

事務局：これも確認したい。

会長：園部と美山の気象について、標高やデータの測定地点の詳しい場所のような情報はないのだろうか。それがある方が分かりやすいだろう。他はどうか。

委員：P12「産業分類別就業者数の推移」のグラフで単位を同じようにできないだろうか。%と実数では比較がしにくい。下のグラフもそうである。

会長：この辺はバランスを考え、文章も少し追加してほしい。

事務局：%を抜いてしまうと京都府との比較が読めなくなるため、言葉を補足するなど検討したい。

委員：これもH17年が直近なのかもしれないが、H18年合併した地点のものは載せられないということか。

事務局：国勢調査については、速報値が出るのが、この計画ができて印刷するくらいの頃になる。速報値に産業分類別就業者数が含まれるか調べて、できるだけ直近のものが載せられるようにしたい。

会長：それは第6回の審議会で反映されるのか、それとも議会を通った後でも修正できるのか。

事務局：速報値の公表時期を調べて、もし議会後になるようであれば、計画書の中に注釈を入れ、公表後追加させてもらうことを説明し、議会でも報告したいと思う。

会長：できるだけ新しいデータを入れてほしい。全体を見直してみしてほしい。

委員：P13「京都府が整備し、H18年度から分譲を開始している」とあるが、現状値がある方が分かりやすいのではないか。その下の「観光」で、「観光資源に、多くの観光客が」というより「観光があり、多くの観光客が」とする方がいい。P14「人づくり」で、「日吉山の家のように」と特筆してあるが、その必要性があるのか。

事務局：P15「日吉町森林組合など」は個別の名称を抜いたが、こちらは指定管理者ということで書いた。市の施設以外でもこういう取り組みをしているところがあり、個別の名前でなく、このような取り組みをしている事業所や団体がある、という書き方をしたいと思う。

委員：P14「環境関連団体」で「ネットワークなどは形成されていません」と言い切るより、含みを持たせた表現の方がいい。

事務局：修正する。

会長：P19上の4つの写真の右下の写真に白い花があるが、これは何の花か。後でカラーのものを見せてほしい。

- 委員：P17「公害処理状況」について、書いてある内容が若干違う感じがする。文章が処理状況の説明ではない。
- 会長：「多くなっているので対策を講じて取り組んでいます」ということだろう。もう一言あるといい。
- 委員：P20「歴史・文化」が簡単に流されてしまっているのが残念である。例えば園部城や小出さんは桂川の治水に尽力を注いだ藩であるなど、南丹地域の歴史を載せてもらいたい。
- 会長：1 ページ増やしてもらいたい。写真を入れてもいいので、ここは大事にしよう。P21 図 2-7 のグラフで、数字が重なってしまっているため工夫してほしい。
- 委員：P22「水循環」もあっさり流されてしまっているように思う。「神田の水」だけでなくもう少しあったように思う。
- 会長：これも写真を足して膨らませ、1 ページ増やしてはどうか。
- 委員：由良川には歴史的な堰があるので、その辺を入れてもいい。
- 会長：文覚上人や、水の循環についても、一種の文化財のようなものや名水もあるので、膨らませてほしい。内容は任せる。資源循環に足してもいいので 1 ページ増やしてほしい。P25 図 3-7 のグラフは、『南丹市・京都府・全国』という順番にした方がいいのではないかな。P24 下の 4 つのグラフについて、詰まって読みにくいレイアウトを考えるといいだろう。P23 図 3-1 など、目を凝らさないと読めないものは、一般の方も見るので配慮が必要である。P26 表 3-4 の 8 万 t という数字はこれでいいのかな。
- 事務局：国の示す算定方法で試算すると、この数字になります。
- 会長：第 3 章はどうか。P33「流域全体の水環境保全に貢献します」についても、もう少し突っ込んでもいいだろう。基本計画なのでこれでもいいのだが、由良川・桂川は重要なアイテムであるため、貢献するために「～を目指します」などの表現はどうだろうか。
- 委員：第 5 章に細かく書いてあるため、「貢献します」という表現でいいだろう。
- 会長：第 4 章はどうか。
- 委員：P35「ここでは 4 つの基本目標を」とあるが、ここにもう一度「人づくり・生活環境・地域環境資源・資源循環」の文言を入れてもいいのではないかな。
- 会長：入れよう。
- 委員：P38「数値目標」の表で、①の備考のアダプト団体の数字が P14 の団体の数字と違う。どちらが正しいのか。
- 会長：確認をお願いしたい。
- 委員：どの部分でも市民・事業者・市という書き方がされているが、例えば P45 の事業者が「参加・協力します」だけでよいのだろうか。もう少し主体的に求めるものはないのだろうか。②の市の立場が「生物多様性保全の視点を踏ま

えます」だが、踏まえるだけでいいのだろうか。

会長：確かにもう少し積極的なものがあるといいのだが。意識を向上させる、参加・協力だけでなく最小限の手伝いをするなど。市は活動を支援するだけでなく、重要と思えば重点施策の中に入れ、事業化に努めるなど。強くは要望しないが、今の話を踏まえて、②③④⑤についても検討してほしい。

委員：P47表の「①年間間伐面積 800ha」の数字はどのように調べたのか。

事務局：農林整備課から提供してもらった。

委員：そんなに間伐をしていないと思う。

事務局：確認する。

委員：21年と27年を比べて、同じ面積というのはどうだろうか。

会長：私も質問したいと思っていた。参考資料の一番下で、「森林による吸収」が6万で合計16万4千とあり、森林による吸収で35%くらいを占めていて一番大きい。それに対して800haではどうか。何か考えなければ絵に描いた餅になってしまう。25%アップの1000haくらいにするのはどうか。そうでなければ難しい。さきほどのP26 二酸化炭素吸収量の話にもつながってくる。間伐の促進事業について、環境基本計画に基づき何年までにやらなければならない、というのも出すべきだろう。

委員：P26表3-4の二酸化炭素吸収量は8万tになっているが、6万tに減った原因はあるのか。

事務局：資源量を計算式にはめていくと、林齢が上がると吸収量が減っていくため、今のまま間伐を800haしても高齢化により減っていく。

委員：そこに新しい植林をすることはゼロになるのか。

事務局：カウントするが、植林してすぐにはそれほど吸収しない。効果が出るのに時間がかかる。

会長：大変重要な話だろうから、今の説明を誰にでも分かるような形でどこかに載せてはどうだろうか。齢級という言葉を知らない人はたくさんいるだろうし、森林が若いかどうかで吸収量が違うことなども含めて、簡単に解説してほしい。P47の表の他の数字はよいか。耕作放棄地の数字などはどうか。

委員：ここはなぜH23年度の目標なのか。

事務局：数字として出せるのは23年度の計画しかないため、27年度の数字は出せない。

会長：④交流人口の230万人の根拠はあるのか。

事務局：総合計画からである。

委員：P49③の「エネルギーの地産池消の推進」で、再生可能だけでなく、水エネルギーは南丹の特性だと思う。水も自然エネルギーであるから、水のエネルギーを追加できないだろうか。

会長：それはよい。南丹でも事例があったのではないだろうか。

- 委員：発電所はないが、地域で小水力発電を立ち上げようという気配は出ている。
- 会長：ウォーターハンマーポンプなど、面白い仕組みのものもあり、可能なことについてお願いしたい。「液肥を用いた農業」とは八木のバイオエコロジーセンターのことだろう。
- 委員：P50④事業者のところで、「利用させること」という表現より、「利用する」の方がいい。P51①についてP21にも数字があるが、南丹市は家庭から出る生活系ごみが日本一少なかったのがH16年だったように思う。P51①に21年度と27年度だけでなく、そこと比較できるような数字を入れるといいのではないだろうか。
- 事務局：備考に入れるという方法もあるが、過去の増加・減少傾向は推移のところで見る方がいいのではないだろうか。
- 委員：備考のところで良いので、載せてほしい。
- 会長：第5章はどうか。P53「積極的な情報発信」だが、ここは「情報の収集と発信」にした方がいいと思う。収集も入れた方がいいと思うが検討してほしい。
- 委員：P53の上に「情報の取得や提供がしやすい環境」と書いてあるが、「取得」というより「収集」の方がよい。
- 会長：この辺の言葉を検討してほしい。発信の前に、まずは情報を集めて保管、整理してからという形がいいだろう。
- 委員：P58「各主体の役割」の市で、「出前講座などを行い、学校や地域での取り組みに参加します」とあるが、その間に意味がない。出前講座を行い、それ以外に学校や地域での取り組みに参加する、という風に私は読み取った。
- 委員：「行うなど」にしてしまっただろうか。
- 事務局：修正する。
- 委員：P59「共存の森づくり（天然林の再生）」とあるが、天然林を再生したら天然林でなくなる。「天然生林」という言葉もある。ここでは天然に近いか、人が少し手を入れた、ということだろう。
- 委員：普通は放ったらかしたものを天然と考える。
- 委員：芦生が本当の天然林だと思う。
- 会長：私は天然林に違う概念を持っている。外してしまうのが一番いいのではないか。
- 委員：この場合の共存というのは、広葉樹と針葉樹との共存という意味だろう。
- 委員：それなら「不成績造林地の天然林化」というのはどうだろうか。
- 委員：それはあり得る。経済的に林業が成り立たないところにまで木を植えているから、それは将来的に天然林に戻していくというのは普通である。
- 委員：天然林の定義が難しい。
- 会長：別の言い方をすると、広葉樹の森づくりでもいいかもしれない。「広葉樹の森

づくり」にして括弧の中は取っておいて、最後にまた検討しよう。

委員：P62「地域環境資源の保全・有効活用」で氷室の郷を載せているが、これも特化すべきだろうか。

会長：私は期待しているので入れてもいいと思う。P15の『氷室の郷』は二重括弧をつけるのか。検討してほしい。

委員：P63「貴重な動植物の保全」の次の矢印が「定期的な見回りなど」になっているが、この順番でいいのか。違和感がある。

会長：調整してほしい。

委員：ベニバナの下にくるのはどうかと思うが、定期的な見回りは里地里山の保全には必要なことである。

会長：バランスが悪いようなら外してはどうか。レイアウト上の技術の問題もあるだろうが。P67「バイオディーゼル燃料の利用推進を図ります」とあるが、何か動きはあるのか。

事務局：公用車に導入を検討しているが、まだ事業化には至っていない。試験使用は検討している。

会長：2月までにはここに書ける段階になるだろうか。

事務局：難しいと思う。

会長：第6章に入る。参考資料1と3は差し込みになるのか。

事務局：説明と一緒に見てもらうようにした。最終的には資料編になる。

【 2）南丹市環境基本計画素案についての検討（資料2） 】

○『第6章 温室効果ガスの削減』について（事務局より説明）

会長：第6章で質問はないか。

委員：P68「深い取り組みに着目し」だが、温室効果ガス削減は当たり前に行っているかなければならないことなので「着目」という表現に抵抗を感じる。

会長：P72「削減目標12.5%」は国の目標の半分である。

委員：P73の表のH2年度やH19年度の電力原単位低減は空いている。そこの推移はつかみにくいのか。

会長：これだけやって最後は12.5%というのはどうだろう。難しいのだが、P73の表で産業部門は318%という数字もどうかと思う。これまでよくまとまってきたおり、最後に-12.5%では弱気に感じる。産業部門の、参考資料1の21,450tのところ、新エネルギー事業をもっと導入していくとか、新光悦村などに新規参入するところに対策をお願いしていくとか、企業やその周辺の人達で二酸化炭素の吸収に代替できる仕組みを何か作っていくとか、何とかならないだろうか。年内にもう一度時間を作って検討してはどうか。

事務局：小さい自治体にするほど変動を吸収できない要因もある。国や京都府全体で

みれば、産業や人口の特異的な移動があっても、それを取り込むだけのボリュームがある。南丹市はH2年以降誘致企業がどんどん増え、基本ベースが変わってしまった。そのためH2年度比というのは不合理に感じる。目標設定のときに、企業活動を分離し積極的な目標設定をすとか、一つの自治体として特異的変動の数字と区分けすることも可能ではないかということも含め、検討していきたいと思う。

事務局：京都府の排出量推移について、追加で資料の説明をしたい（資料を配布し説明）。

会長：難しいのは分かるが何とかならないだろうか。

事務局：産業部門のボリュームが増えているのにH2年度比25%は市民や市内事業者に過重な負担を負わせることにならないだろうか。日本全体で25%の動きはいいにしても、南丹市の目標の数値設定には違う考え方を採用するのも一つの方法だと思う。

委員：市民や事業者が努力をして12.5%という数字になったのだと思うが、南丹市もそれに付随した施設や設備を導入しなければ25%は達成できないと思う。国が25%という目標を定めているのだから南丹市もそれに近づく努力をしなければならぬ。そのために行政として何ができるか考えてもらわなければ目標数値の達成はできないだろう。市民や事業者に負担をかけるだけでなく、行政としても太陽光や小水力発電などの新しい技術を取り入れ、目標達成の努力をするということを入れていかなければならぬ。

事務局：中期までの財政計画が出ている。積極的に新しい技術を取り組みたい思いはあるが、それを裏付ける予算がない。絵に描いた餅にならないだろうか。

委員：それでは行政はあまり汗をかかずに、市民や事業者に汗をかいてもらうことになる。それではみんな納得ができない。

事務局：納得できないのは分かるが、投資をする財源がなく、苦しい状況である。

会長：お互い主張しても始まらないので、知恵を出し合いたい。炭素税の売買や環境債券のようなものを作ったりして、他地域のものを購入する話もあり得ることである。例えばそれに新光悦村の企業がどれだけ納得でき、どれだけお金を出せるかということもある。難しいかもしれないが、10社のうちの1社でも、12.5%を少しでも増やすしくみにいろいろ知恵を出し合えていければ、素晴らしい基本計画になると思う。ここが一番苦しいところかもしれないが、何とかみんなで知恵を出すのが必要ではないか。環境基本計画の現状・分析があって、最後の温暖化対策が国の半分の目標値というのでは情けない。25%に近づける努力をしなければ私は納得出来ない。

委員：H2年・19年・32年の取り組み前には吸収分が一切入っていない。実際はもっと多いはずである。数字に何かトリックを感じる。この部分はもう一つプロ

ジェクトを作らなければこの場では難しい。南丹市で作っている実行計画は何年度までなのか。

事務局：H24年度までであり、基準年も違う。それに公共施設だけのものである。

委員：H2年、H19年度の数字がほしい。P73「その他」の数字はつかめないのか。

事務局：H2年度では森林での削減を考慮しないのが基準なので、ここに入れるのは難しい。H19年度は森林による吸収を試算すれば出せる。しかしさきほど森林の吸収量が年々減っていくという話をしたが、H19年度ではH2年度比をクリアしているのに、H32年度では超過してしまうことになる。他の自治体でも区域施策の計画については議定書に基づくH2年度を基準においているところと、実情に応じて基準を最新年度にするところもある。基準をH19年度にし、そこからどれだけ減らせるかのみで、H2年度との比較をしない計画もある。見せ方の選択になってしまうが。

会長：見せ方もある程度必要である。そこは行政がコンサルと頑張ってもらいたい。手法上20%になることはあり得るかもしれない。もう一つは参考資料1の森林による吸収が6万tということだが、もっと少ないのではという話が出てくると、それに対して間伐の促進や植樹などで、削減量が大幅に変えられるのかということである。あるいは伐採を事業として促進化させれば、例えばH32年度ではそんなに効果がなくても、森林を若返らすことにより30年後には追いついていくなどの流れが見えれば納得できると思う。こういう手立てをやれば変わっていくというのが示されれば、委員を含めて市民も納得できるのではないだろうか。もらった資料で最適な流れを作っていきたい。そのためには今年中に資料を準備してもらいたい、パブリックコメントはいつだっただろうか。

事務局：委員の皆さんから事務局と正・副会長とで検討することを一任いただきたい。年度内に計画を作成し、その後議会に諮ることになるが、課題があるものに時間をかけさせてもらったほうがいいだろう。

会長：他にも希望委員がいれば加わってもらいたい。何とか25%にしたい。今の話だと、広大な森林があることと新光悦村とのバランスになるだろう。

委員：新光悦村の入居状況がずっとこのままいくのか、その辺で増加量も変わるのだろうか。

事務局：産業部門の二酸化炭素排出量は、H2年、H17年、H19年の製造品出荷額を見て、それから推計の線で伸ばしている。

委員：極端に言えば永久的に線で伸びていくということだろう。

会長：新光悦村の話も一つの要素として必要であり、日吉の森林組合もあり、水もある。そこで何ができるかだろう。

委員：新規事業者に対しては、その辺を踏まえた協定書にやっつけていかなければなら

ない。ペレットボイラーを入れたり太陽光発電にするということの一つは守ってもらおうなど、これから省エネ機器を入れるのは当たり前かもしれないが、南丹市の特性を持った自然エネルギーや再生エネルギーを使える仕組みを協定書の中に入れるのも一つの手かもしれない。

会長：企業が関連した周辺緑化や森づくりなどもあるだろう。井筒八ツ橋の会長に周辺を森にすることに合意してもらっているが、多少なりとも森林が増える。

委員：新光悦村の中のエネルギーをスマートグリッドのような形にできないか。

事務局：新光悦村は10ha程の工場用地である。新光悦村より以前に進出した企業で大きい工場ができてしまっている。例えばジャトコは多くの電気を使う。

委員：バイオ燃料を南丹市のバス、農業部門ではトラクターやコンバインに使うように指導していけば循環エネルギーになる。行政として取り上げて努力することも必要ではないだろうか。そういうことも計画に取り入れるとCO₂の削減になるだろう。

会長：参考資料1を見ていると、16万4千tに対して低炭素型を見ても1万t程なので、うまく達成されたとしても1/16程でさほど大きくはない。やはり森林吸収が一番大きいので、まずはそのデータが正しいかどうかを検証し、森林が成長する過程でどのようなマネジメントをしていくのが一番効果的かということ。この表を見ながら一番効果的なところを細かく積み上げていくしかないと思う。

委員：参考資料1「その他」を見ていると、P73の表「その他」のところと数字が逆転している。どちらが正しいのか。

事務局：参考資料1が正しい。修正する。

事務局：委員の先ほどの話のように、市としてできることも考えていきたい。

委員：取り組みがたくさん書いてあるが、これをロードマップに落とし、それからこの数値へ近づけていかなければならないだろう。バイオマスのこともしっかり書いてあるが、実際にそれをどうつなげていくかがまだ絵として描けていないだけである。バイオマスタウン構想もあるが、南丹市が誇れるエコタウンになってほしい。それは私が地域連絡会を作ったときの夢である。仲間ともそういう方向で活動している。ロードマップを作り、行政も事業者も入って窓口をしっかりとつなげていくべきだろう。

会長：ロードマップは次のステップの話である。それも片方では必要だろう。

【 2）南丹市環境基本計画素案についての検討（資料 2） 】

○『第 7 章 計画の推進体制』について（事務局より説明）

委員：P74「推進体制」のフローの中に「学校」がない。「地域」の中に学校の体制を作っていかなければ、市民と自治会だけではなかなかできない。南丹の中で一つのモデル地区（校区）を作り、そこから進めるという方法がある。

会長：地域の中に学校を入れよう。

事務局：ここは「自治会」となっているが、色んな形態があるから「自治組織」としたい。

会長：大きな課題を乗り越えれば素晴らしいものになるだろうから頑張ろう。とことんやった結果が 12.5%であるなら堂々とできる。参考資料 2 で用語解説を出してもらったが、カタカナが多いため、一般市民の方には難しいところがあるだろう。全体的にはこれでよいと思うが、もう少しくだいた感じにしてもらいたい。もし項目が足りなければ市に直接お願いしてほしい。また、本文中の※は減らしてほしい。

委員：※が同じページに何度も出てくるのはよくない。ページが変わるならいいかもしれないが。

事務局：参考資料のページ番号などは修正する。中身の表現でおかしいものがあれば指摘してほしい。

委員：本市・南丹市・京都府の使い分けに統一をもたせて精査してほしい。

事務局：直したつもりだったが、どこかあれば個別に指摘願いたい。

【 3）その他 】（事務局より説明）

< 4. 閉会 >

副会長あいさつ

以上